



社長が天職だという松田。現場主義を貫き、社員からの信頼も厚い

真剣に追求すればするほど  
深まるQCDという基本  
いま第一プラスチックは



# モノづくりの第2フェーズに入る

第一プラスチック 代表取締役社長  
**松田 雄一郎**

まつだ ゆういちろう

2002年、父・正夫が62歳で引退。松田雄一郎は、弱冠26歳で第一プラスチックの社長に就任した。この4年間で振り返って、松田は「よくやった面もあったが、まだやり切れていない部分もある。自分のダメなところもよく分かった」とサラリと言う。しかし、ここ数年、売上げを急ピッチで伸ばしてきた実績には、だれもが目を見張る。

このインタビューで、松田は戦略的な話になると、ここはじっくり説明しなければというのだろうか、テーブル上の紙に図やチャートを書きながら話をすすめる。考える、説明するという仕事の基本を大事にする松田の姿勢を垣間見た。



**Profile** 松田 雄一郎  
(まつだ ゆういちろう)

1976年大阪府生まれ。大阪の八尾空港を庭にして育った松田は、高校卒業後、家業を継ぐために修行。その後、現場で徹底的に技術を磨き、26歳の若さで社長に就任。社長就任後の売上は6億→9億→12億と驚異的に伸ばしている。

## QCD、そして次のフェーズへ

——プラスチックの成形加工で業績を伸ばされていますね。

松田：ええ、ご存知のようにプラスチック成形は驚くほど広い分野にわたる技術なんです。当社は真空成形、圧空成形が仕事の柱。フィルムやプレート、加飾(表面にさまざまな技法を用いて装飾を加えること)された材料を成形加工する技術で、その用途は建設機械や自動車の内外装、医療機器の筐体(きょうたい)など、

あらゆる製品分野にわたります。大型成形品や複合多層材料の成形など、新しい技術分野へもいろいろ挑戦してきました。

——この仕事の面白味は、どういう点にあるんですか？

松田：勝負を追求しつつ、コストを落とす、納期を早める、これを愚直に追求していく。つまり、QCDという基本を追いかけます。本当に面白いのはその次の段階からで、色々な技術を組み合わせ高付加価値の技術開発に挑戦する。他社じゃ作れないものが作れるようになり、差別化が実現できる。そういう技術力を確保できれば、しっかりと優位性を築くことができるし、いいシーズを開発し、ちゃんと発信することで、よりいいものを作っていくことができるのです。

当社はまだまだQCDを追求している段階、でも次のフェーズに入るための準備は社員達と始めています。

## 社長論、そして組織論

——そういう伸び盛りの企業を経営するのは大変だと思いますが、社長業は天職だとおっしゃっているそうですね。

松田：そう、ぼくは経営者になるために生れてきたんだと(笑)。経営者としての仕事に、何のためらいもなく入っていくんです。困難なことや苦労が立ちばだかっって、その解決策をどこと考える。それを苦しいととらえるか、楽しいととらえるかの違い。ぼくは楽しいと思えるんです。だから、天職かなと。

父から「会社をやるか」と聞かれたのが中学生の頃、小さい時分から足が速かったので、将来はスポーツ

——最後に、読者の皆さんへのメッセージをお願いします。

松田：最近では理屈っぽい人が多いかな。あれこれ理屈を言う前に、まずはやってみると。まずはやってみると、それからモノを言ってみよう。

でも、人生でも、失敗はつきものです。ぼくは、失敗してもいいから何度でもチャレンジすべきだと思っています。自分の中にきらんとしたスピリットがあるんであれば、それは必ずプラスになるはず。考えすぎずに、まずはやってみることが大事だと思う。

失敗かどうかは、とらえ方ひとつです。就職にしても、結婚にしても、一度やってみなきゃわからないし、うまくいかなかったからといって必ずしも失敗ではない。次にその経験を生かせばいいわけですから。そのとき、そのときに、自分でベストを尽くしていればいいと思いますね。

向かい合って話をする。社内のセミナーや勉強会を通じて、お互い裸になって、ホンネで話をする、聞く。そして夢を共有する。コミュニケーションを大事にすることで、組織として力をつけていきたい。

——経営者としての意思決定の重みを感じさせるエピソードですね。松田：そうですね。しかし反面、それは一人のベテランの力に頼っているという組織の脆弱さを語っていたともいえるんですね。だから、ぼくはいつも会社で言い続け、変えてきたんです。組織で戦えるチームにならなければいけない。そのためには、きちんとした組織をつくっていくことが大切。これまでは、家内工業的な組織と、企業としての組織の中間に位置する、中途半端な会社だったと思います。

これからは、会社の理念や理想もみんなで語り合っていく、そういう会社にしていきたい。実は、この6月にも合宿形式でみんなで議論したんです。ぼくから3つの目標を示して、それをどうしたら達成できるかを考えよう。と、とん話が出来ましたね。大事なのは、社員の自主性を重んじる。社員一人一人ときっちり

他社には真似の出来ない技術力をつけていきたいと思っています。

——モノづくりの魅力って何でしょうね。

松田：本当にモノづくりが楽しくてしょうがないって人、いますよね。会社の仕事だからとか、会社がどうしろということじゃなく、本当に好きなんですよ、モノづくりが。楽しくて仕方がない。もう子どものように熱狂して仕事に取り組んでいる。日本人にはそういうふうのめり込んでいく資質があるようですね。けっきょくモノづくりの魅力ってそういうことなんです。若い人を熱狂させる何かがある。それがモノづくりの本質じゃないでしょうか。ウチの会社はそういう人たちに場を提供していきたい。やりたいことを話してくればそのチャンスをつくりますよ。チャンスを提供する会社になりたいと思いますね。

したことからかって、他の人と共有したがるタイプなんです。だから読んで本をみんなに買ってあげたり、回したりすることも多い。みんな「また来たか」って思っているかもしれない(笑)。だけど、例えばアメリカのベストセラーで「ザ・ゴール」って本がありましたよね。あの本の中にポトルネックという言葉が何度も出てきます。ぼくも会社でポトルネックって言葉を使うことがありますが、その本を読んでいないとぼくの話が通じなくなる。だから読んでおかなければ。このへんはちょっと戦略的ですが(笑)。

幸せのカタチはいろいろあるだろうけど、第一プラスチックに入社した人は、みんな幸せになってほしいと思う。経営者としての最終目標はそれに尽きますね。

## モノづくりとは

——今後の戦略、ビジョンを聞かせてください。

松田：大きくとらえると、日本は資源の少ない国ですから、将来もモノをつくり、輸出していく国です。生産拠点を海外に移転する傾向が強くなっていますが、それは安易すぎます。中小企業は大企業に依存していきかざるをえない。それが空洞化につながるわけですね。ぼくは、あくまで需要のあるところでモノをつくり、地域に根ざして成長していく企業でありたいと思っています。そのためにも、先ほどもふれましたが、

松田：ちゃんと挨拶できる人、分からないことは分からないと言える人、明るい人、それが基本ですね。就職はある意味、結婚のようなものです。とことん相手を知るべきで、そうすれば失敗もない。どこまでお互いを見せ合えるかが大事だと思います。だから、ぼくは面接でとことん聞きまくりますよ(笑)。面接はお互いを知り合う場ですから、相手も会社のこと、仕事のこと、どんな話を聞いてほしいですね。

ぼくは、興味を持ったこと、感銘

## The Management Data File

### 経営者データファイル

お名前.....松田 雄一郎  
生年月日.....1976年1月8日  
身長.....176cm  
体重.....64kg  
平均睡眠時間.....7時間  
平均起床時間.....午前6時30分  
趣味.....仕事、ゴルフ、読書、時計  
乗っている車.....国産車

オススメ本.....7つの習慣  
家族.....妻と子供1人  
今までに訪れた国.....5カ国  
座右の銘.....明るく楽しく元気よく  
購読雑誌.....日経ビジネス  
尊敬する人.....父  
好きな食べ物.....オムライス、サラダ、とろろ蕎麦  
嫌いな食べ物.....納豆

## 会社概要 第一プラスチック株式会社

所在地 ● 大阪府八尾市空港1-117  
設立 ● 1974年 資本金 ● 1,000万円  
事業内容 ● 真空成形・圧空成形・プレス成形品全般、組立・プレス、トムソン抜き・接着加工・切削加工・シルク印刷・プラスチック資材・製品の販売  
敷地面積 ● 3,254㎡  
建物8棟 ● 3,745㎡ URL ●  
http://www.daiichi-plastic.co.jp/



就職情報は  
コチラ